

科目区分：大学院：心理発達臨床専攻科目，授業科目名：臨床心理面接特論 1（登録学生数 8 名）

担当教員：心理発達臨床専攻・信原孝司

地域貢献に役立つ心理臨床を目指す授業実践

1. 授業の概要

本授業では、臨床心理士・公認心理師の養成を意識して、臨床心理面接の専門性について、特に精神分析的心理療法の側面から学び、理解を深めることを目的としている。授業の到達目標は、心理臨床の専門性に関する知識の習得と、今後の実習における心理臨床実践に備えることである。この科目は、臨床心理士・公認心理師を目指す心理発達臨床専攻大学院生の必修科目であり、履修生は両資格の取得を目指している。

授業初回では、授業内容と進行日程をシラバスに沿って提示している。これは、履修生が前期の見通しを持って予習に取り組み、関連した項目の復習に取り掛かりやすくなることを意図したものである（以下は今年度の講義内容）。

- (1) オリエンテーション：サイコセラピー（心理療法）はなぜ効くのか
- (2) 精神分析について
- (3) 臨床心理面接での問題理解と面接構造
- (4) 臨床心理面接における技法
- (5) 心理療法の初期面接
- (6) (1)～(5)の補足・質疑応答
- (7) 映画を通して臨床心理面接を考える 1
- (8) ディスカッション
- (9) 心理療法の基本技法 - 質問・明確化・直面化・解釈 -
- (10) 面接中期 — 転移・逆転移
- (11) 面接終期 1 — 抵抗・気付き・ワーキングスルー
- (12) 映画を通して臨床心理面接を考える 2
- (13) ディスカッション
- (14) 面接終期 2
- (15) 授業振り返り・最終レポート提出

2. 授業評価・授業研究の内容

以下、履修生提出の最終レポート中の授業評価を中心に振り返る。コメントでは、授業内容や授業方法については支持的な評価が多かった。また、臨床心理面接と関連した映画の視聴とディスカッションは「映画を心理学の視点から観たことがなく新鮮だった」等と好評だったが、ストーリーの把握が難しい学生も少数いた。

昨年度以前では質疑やディスカッションの方法や時間配分に課題があったので、小グループによる短時間のディスカッション形式を取り入れた。講義内容によっては時間配分が難しい時もあったので、(6)で補足・質疑応答の時間を取り、柔軟な授業運営となるように工夫した。

3. 実践で役立つ学びへの配慮

授業では、より心理臨床の実践で役立つような学びとなること、地域に役立つ授業実践となることを意図して、履修生とのやり取りでは担当者が答えを与えてしまわないように工夫した。例えば、授業のテーマ区切り毎に質問時間を設け、質問には履修生間のディスカッションを促して、自分達で考え、納得するような学びとなるように配慮した。

また、履修生には県内出身者が多いが、他県出身者もあり、年齢構成が多様であることに加えて、社会人経験者もいるため、ディスカッションで多様な味方や意見を持ち寄ることで、議論が活性化したことは成果であった。

5. 総括

授業では、履修生の自立的な発言を促し、履修生に考える時間やヒントを与えて、活性化するように配慮したが、発言者が一部に偏ったり、時には話題が逸れ、授業時間が足りなくなることもあった（そのため授業予定の柔軟な組み立てが必要な部分もあった）。担当者は意識して発言は全ての履修生ができるように工夫をし、話題が逸れた時にも関連した話題を展開させるように工夫したが、それが本来のテーマ理解に繋がる場合もあり、興味深かった。

更なる工夫の余地としては、ディスカッションから派生したテーマを次回授業で取り上げることで、より発展的な理解に繋がる可能性はあるが、授業予定に沿った進行も必要であったため、どのように、どの程度、柔軟性を持たせるかは今度の課題である。

今後の履修生と担当者との相互的なやり取りから理解を深め、地域貢献に役立つ心理臨床実践を目指す学びとなるような、授業実践に取り組んでいきたい。